

139 糸満マギー (二) (寿命)

死んでからよ、この人の骨はばらばらにならなかった。昔は洗骨して、死んだらお墓の中に入れるでしょう。だから、一年たったら全部また洗骨して、骨を一つひとつにまとめてまた墓の中に入れる。この人死んでも、あばら骨もいっしょにくっついてるんですよ。一つだったですよ、あばら骨。

この人が若い時は相撲よ、沖繩相撲。首里でやったらしいよ。糸満からこの人が出て。一番、空手の強い人がわりとこれ強いですよ。だから、相撲取っておる時よ、首里の空手の師範級の人が見たらよ、この人はあと三か月の命という。三か月で死ぬって。だから、空手出来る武士は、どっかの、死ぬあれをわかるわけ。糸満の人がわからない。だから首里の人はよ、あれ見て、もう三か月で死ぬ。ツボがあるわけだから。これを抜かれたのを見たというさ。

だから、三か月後で聞いたらしい。

「糸満マギーは生きておるか」と。

「あつ、元気で漁業やつておる」。びっくりして。この人のことが何ももう。だから、死んでもあばら骨もばらばらにならんぐらいだから、ツボに空手の達人があれしても、何も、この人一人は何もわからん。だが、相撲やつて、終わって帰ってきて、まだ三か月あとの話、元気で漁業やつておると。向こうの空手の専門の人たち、みんなびっくりしよったって。空手も何もわからん。漁業する、それだけ。

身長も高くて、石垣よ、石垣から、座って、この人が歩くの見えよったって。だいたい石垣は、自分より高いぐらいあるでしょう、昔は。だから通ったら、この人はもうこれだけ出て。この人以上の人はもう生まれてこないわけ。

字糸満 大城英次

類話

字北波平 大城正太郎

字束里 玉城佐一郎 (東辺名区)